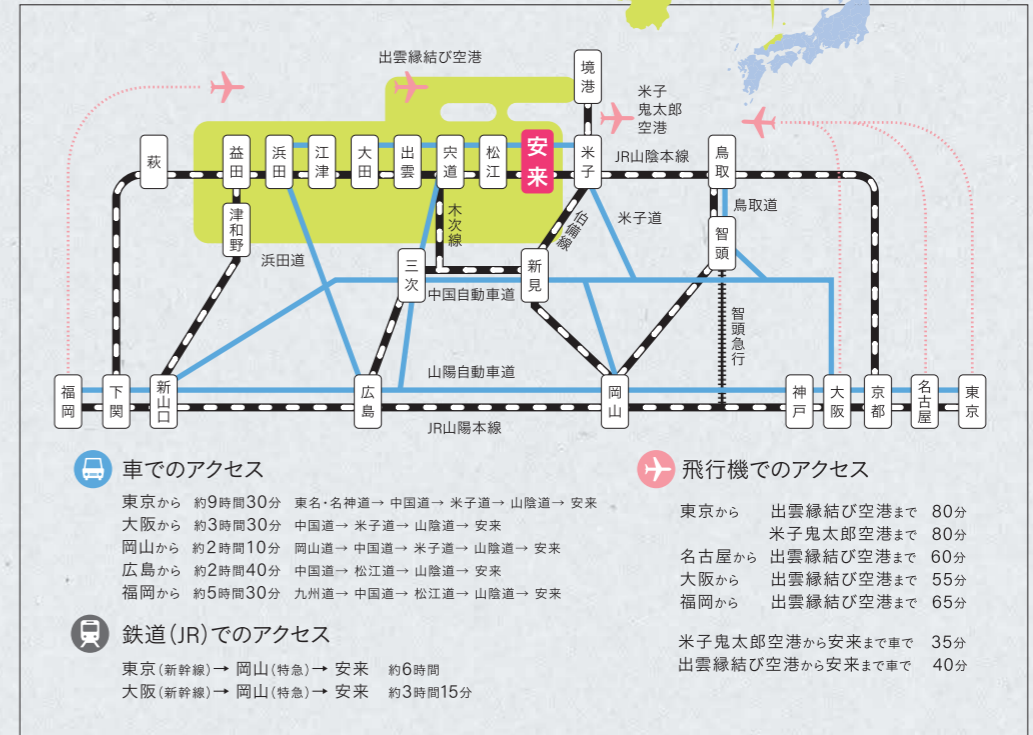
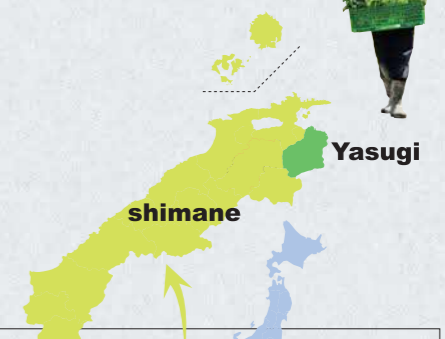


やすぎ就農Book

2024



島根県安来市



就農に関するお問い合わせは

安来地域担い手育成総合支援協議会 Tel.0854-23-3330
 (安来市農林水産部 農林振興課)

〒692-0207 島根県安来市伯太町東母里580 fax.0854-23-3382

e-mail: shinkou@city.yasugi.shimane.jp

http://www.city.yasugi.shimane.jp/busyo/sangyou/nourin/kensyu/

島根県 東部農林水産振興センター 安来農業部
 〒692-0025 島根県安来市穂日島町303
 Tel.0854-22-2341 fax.0854-22-4352
 e-mail:noshin-yasugi@pref.shimane.lg.jp

島根県農業協同組合 やすぎ地区本部 担い手支援センター
 〒692-0025 島根県安来市穂日島町303
 Tel.0854-23-0255 fax.0854-23-0255
 e-mail:ninaite.yas@ja-shimane.gr.jp

安来市農業委員会
 〒692-0207 島根県安来市伯太町東母里580
 Tel.0854-23-3360 fax.0854-23-3383
 e-mail:nougyou@city.yasugi.shimane.jp

発行 / 安来地域担い手育成総合支援協議会(安来市農林水産部 農林振興課)
 2024年3月発行 *無断転載、コピーはご遠慮ください。

就農後も一緒にがんばろう



安来市では、新規就農を目指す方に対して包括的な支援を行っています。「師匠」の指導のもとでの研修から、就農時の「農地」の確保や「ハウス整備」まで一貫してバックアップ。また、将来の定住を見据え「住まい」のサポートや「集落」での受け入れ支援などもしています。

単身者も子育て世帯も安心！



師匠のもとでマンツーマン の実技指導

島根県知事認定の指導農業士のもとでの研修を行います。強い師弟関係を築いて、就農後もサポートします。



移住見込みの方や就業準備中にお試し住宅

安来市への移住を検討する方が一時的に居住し、安来の気候、風土、生活を体感してもらうための施設です。安来市への移住が確実と見込まれる方が、市内に転居したり、就業準備のために一時的な仮住居としても利用可能です。



空き家バンク

居住しなくなった空き家を所有者が市に登録し、その物件を売りたい人・住みたい人へ紹介する仕組みです。UIターンや田舎暮らしを希望される方、市民の方へ市内の空き家（賃貸・売却が可能な物件）を紹介します。



安来市定住支援サイト: やすぐらし「住まい・空き家」サイトはこちら ↑



ハウス整備 支援で、初期投資を軽減

いちご、有機葉物野菜などハウス栽培の作物の場合、県の補助事業を活用し、就農時の初期投資が軽減できます。



葉物ハウス いちごハウス



農地の確保

新規就農者の希望に添いながら、関係機関で連携し、相談可能です。



集落 全体で受け入れ

集落内の話し合いにより策定された集落ビジョンにより、UIターン新規就農者の受け入れ体制づくりを進めています。



安来地区

中海に面している安来地区は、国道9号とJR山陰本線が東西を走る、アクセス至便なエリア。ハウス栽培の葉物や、完熟とれたてで差別化をはかるいちご栽培が盛ん。

伯太地区

安来市の特産「伯太番茶」の産地として知られる伯太町は、昔からお茶栽培が盛んな地域。約60万本のチューリップが咲き誇る「チューリップの里」としても有名。

広瀬地区

安来の山間部の広瀬地区は、戦国武将「尼子氏」の居城、月山富田城を望む旧城下町。寒暖差がある標高300mの田んぼで栽培される良質米の産地。

安来で就農しよう

島根県の東端、鳥取県との県境に位置する安来市。南には中国山地に連なる山々が横たわり、そこを源流とする飯梨川と伯太川の2本の川の間には、広大な能義平野が広がっています。肥沃な大地は県内有数の農業地帯として恵みをもたらし、水稲、いちご、ぶどう、梨、花き、葉物野菜などの産地として多くの安来ブランドを生み出しています。農業研修の受け入れにも積極的なことも安来の風土。農業に夢をもち、共に挑み続ける新しい風を歓迎します。



あー、なつてなつて

「安来節」の
どしようすいで
お♪じみのまち

安来市は新規就農者を応援します。

Step 1

就農相談

農業で生きる決意を固める前に、まず相談。担い手協議会では農業に関する情報提供やアドバイスを行っています。また、各地の就農相談会や農業体験ツアーへの参加もお待ちしております。



就農の決心

審査

- やる気
- 計画性
- 自己資金
- 労働力

あなたが農業に向いているか、支援すべき人材かなど、総合的に審査します。

農家ミニ体験

本格的な研修を受ける前に、自分が本当に農業ができるかどうか、安来で暮らせるかどうか、実際に安来に来て、農業ミニ体験をしてみよう。



体験期間 / 1日～3日

Step 2

師匠研修 安来市新規就農研修

◎ 師弟制度でマンツーマンの実技指導

島根県知事認定の指導農業士のもとで、新規就農に必要な農業技術や経営管理を習得するための研修を実施し、就農後も相談役としてサポートします。

- 対象者 / 研修期間終了後、安来に定住し、新規就農が可能な方で農業に積極的に取り組む意欲のある方
- 研修期間 / 1年以内
- 研修先 / 指導農業士農場（農業研修）、関係機関（農業）

働き方の選択・決断！

半農半X

雇用就農

研修中の住まい

- 滞在施設（宿泊施設）を利用できます
ワンルーム（52㎡・ロフト付・セパレート）
使用料 2万円/月（光熱費は実費負担）
無料駐車場完備
- 傷害保険に加入（掛金は安来市負担）

- 助成内容
- 産業体験事業（ふるさと島根定住財団）
UIターン者
12万円/月（3ヶ月ごとに36万円支給）



Step 3

実践研修 自営就農研修

研修用のハウスを借りて栽培の計画から実際の栽培、収穫、販売までの一連の作業を実践的に研修できます。

- 専門的な栽培や経営技術、知識の習得を目指し、研修施設で研修（JA担い手支援センター）
- 農業士への弟子入り・経営研修・販売対策ほか

助成内容

● 新規就農者育成総合対策（就農準備資金）

就農時50歳未満
最大150万円/年（最長2年）
※世帯所得600万円未満対象

● 農業人材投資事業（県単・準備型）

就農時50歳以上65歳未満
〈UIターン〉最大144万円/年（最長1年）
〈県内在住〉最大72万円/年（最長1年）
※世帯所得600万円未満対象

Step 3

半農半X研修

専門的な栽培や経営技術、知識の習得を目指し、農家や研修施設での研修（農家、JA担い手支援センターなど）

農業士への弟子入り・経営研修・販売対策ほか

助成内容

- 就農前研修経費助成
就農時65歳未満
12万円/月（12ヶ月以内）
要件 / 県内5年以上居住

雇用就農

- 雇用就農先を探し、就職活動を行う
- 雇用農業者として就農
- 雇用就農先でOJT研修



安来市は、行政、JAなどの関係機関が連携して農業をしたいあなたをバックアップします！

Step 4

就農 就農計画を作成し、認定新規就農者になる

- 農業所得目標：概ね280万円以上（就農5年後）
- 適切な資金運用計画を立てる
- 年間農業従事日数が150日

- 営農サポート / 農業普及員による技術指導・経営指導、その他情報提供
- 施設整備 / 県の新規就農者を対象とした補助事業（補助率：1/3）
- 自己課題解決研修事業 / 営農課題解決のための先進地研修等に助成
- 青年等就農資金等 / 経営開始時の施設整備や経営費等のための制度資金（無利子・上限3,700万円、償還期間：17年以内（5年据置））

助成内容

● 新規就農者育成総合対策

- ① 経営発展支援事業 就農時50歳未満 補助事業費上限1,000万円（補助率3/4）
- ② 経営開始資金 就農時50歳未満 最大150万円/年（最長3年）
※世帯所得600万円未満対象
- ①、②併用の場合、①の補助事業費上限500万円

● 農業人材投資事業（県単・経営開始型）

就農時50歳以上65歳未満 最大72万円/年（最長2年）
※国際水準GAP（美味しまねゴールド等）を事業開始後1年以内に取得

Step 4

兼業農家になる

営農サポート
農業普及員による技術指導・経営指導、その他情報提供

施設整備
半農半X開始支援事業（補助率1/3）
補助事業費上限300万円

助成内容

- 定住定着助成 6万円/月（12ヶ月以内）
- 農業所得目標
平坦部 農業部門80万円、X部門120万円
中山間地 農業部門50万円、X部門100万円
※国際水準GAP（美味しまねゴールド等）を事業開始後1年以内に取得

Step 4

兼業農家になる

やすぎ農業サポートセンター

詳しくはP10へ

自営就農

安来市特定地域づくり事業協同組合

地域づくりパートナー

- マルチワークで経験を積む
- 派遣先でOJT研修

詳しくはP09へ

雇用就農

担い手支援センター

島根県安来市穂日島町303
TEL.0854-23-0255

島根県より農地・施設を借り受け、2012年4月から安来市の農業研修事業施設としてスタート。研修用のハウスと露地圃場を整備し、自営就農するまでの実践的な研修ができます。現在は、いちご（土耕、高設）、有機葉物野菜（ほうれん草、小松菜、水菜）、露地野菜（白ネギ、ニンジン）の各品目に応じた取り組みが可能で、国や県の「準備型」の助成を受けることができます。



担い手支援センター
中川 治 さん

「研修生の方にはここで少しでも自信をつけていただくと同時に、就農5年後に280万円以上の農業所得を得られるような計画を立てていただきます」と支援センターの中川治さん。行政機関や各種団体等と連携をとりながら、初期投資費用についての具体的な相談や就農後に必要となる農業簿記の研修など、研修者のニーズに対してさまざまな支援を行っています。

「新規就農する方の思いはそれぞれです。その方が目指す農家経営に向けてベストな形になるような支援ができれば」と中川さんが言うように、担い手支援センターは研修者が農家経営に踏み出す一歩手前の力強い味方です。

実践研修 自営就農研修

Step
3



自営就農するまでの期間 最終的な実践研修ができる

担 い手支援センターは、師匠研修（ステップ2）を終えた人が、自営就農までの期間に研修用のハウスや農地を借りて自分のやり方を実践できる施設です。要望に応じて農薬や肥料の手配などもしてくれ、技術的なことは同じ敷地内にある県の農業普及員に聞くこともできます。

研修施設

- 【施設概要】 圃場面積515.9a
うち研修用施設（ハウス6棟（19.6a）、露地圃場60a）
- 【研修可能内容】 いちご（土耕、高設）、有機葉物野菜（ほうれん草、小松菜、水菜）
露地野菜（白ネギ、ニンジン）
- 【研修定員】 4人（安来市新規農業研修修了者（師匠研修修了者））



担い手支援センター



いちご（土耕、高設）



有機葉物野菜（ほうれん草、小松菜、水菜）



露地野菜（白ネギ、ニンジン）



研修生コメント

育苗ハウス1棟、栽培ハウス1棟を借りて、育苗から定植、栽培管理、収穫、出荷まで、一連の作業を実践的に学んでいます。担い手支援センターのスタッフの皆さんには、栽培に関するアドバイスをいただき、とても助かっています。また研修会では地域の農家の皆さんと交流できるのも嬉しいです。品質、収量の向上を目指し、栽培方法の理解をさらに深めたいです。

研修生 角慶斗さん（24）

●角さん プロフィール

米子市出身。Uターン後、安来在住の叔母から求人情報を得ていちご農家でアルバイト。師匠研修修了後は2023年6月からの担い手支援センター研修を経て、2024年9月就農予定。

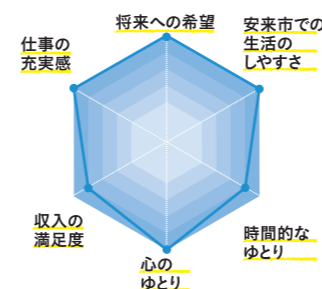
●高見いちご縁 高見謙一さん プロフィール

JAのやすぎ苺部会の部長。「栽培は基本を大切に、消費者に渡るまでの後工程も大事に」が信条。元いちご農家の両親と妻子の家族ぐるみで、章姫、紅ほっぺ他を高設2棟、土耕6棟で栽培している。

角さんの研修中の1日

- 7:30 収穫研修
- 10:00 調整作業
- 11:30 昼休憩
- 13:30 調整作業
- 15:00 ハウス内管理
- 16:30 出荷

研修中の満足度指数



Q.農業のやりがいと、大変なところは？

A. 生産者という視点から「食」に関われることに一番のやりがいを感じています。

Q.現在の課題と、今後の目標は？

A. 就農までの時間は決まっているので、その時間を無駄なく効果的に使いたいと思います。体調を崩すことがあるので、体調管理には一層の注意を払っていこうと思います。



「やすぎ苺部会」がサポート！

- 部会員数：66戸（現在）
- 主な品種：章姫、紅ほっぺ、かおり野、よつばし など

やすぎ苺部会では、適期での完熟収穫による、味にこだわったいちご栽培をコンセプトとしています。研修会などで技術面のサポートをすることで、高品質・高単価を目指し、統一された規格（色、形）、品質での出荷を行っています。

師匠研修 interview

Step
2



就農歴
9年

指導農業士
高見謙一さん（56）

研修歴
2年

いちご研修生
角慶斗さん（24）

若者の夢をふくらませ 笑顔にする安来のいちご

大 学進学で故郷米子市から離れた角慶斗さん。就活時期に農家で働きたいと考えるようになったのは、人生における「食べる」ことの重要性を思ったからだ。Uターン後、いちご農家のカフェでアルバイトをし、毎日いちごを身近に見ているうち、生産者もお客さまも笑顔にするいちごの魅力にはまっていった。カフェのオーナー自身が安来の新規就農制度の利用者だったことから情報を得ると、一気に就農への道筋が見えた。

2022年6月、高見さんのもとで1年間の師匠研修が始まった。農業のイロハも知らなかったが、収穫後の株の刈り取りに始まり、育苗と水やり、追肥、防除、定植、収穫など、確実に技術を身につけている。これまでは農業は年配の人がやるイメージだったが、今は「自分と同じ若い人たちに農業のやりがいを伝えたい」と意欲的だ。将来は、身体への負担も少なく、定年後の両親とも一緒にできる高設いちご栽培をやりたいと考えている。



就農歴
6ヵ月

小崎一貴さん(45)
美月さん(30)

安来で育ついちごは
夫婦の夢と地域の結晶

小崎さん夫妻は元公務員。以前から興味があった農業で40歳を機に定住したいと考えていた一貴さんの思いは、やがて美月さんとふたりの目標になった。各地の新規就農者支援情報を調べ、見学したうえで選んだのは安来市だ。決め手は、実践的な研修体制が整い、地域で心から歓迎してくれる温かな雰囲気と先輩1ターンの存在、補助金等の支援の充実だった。移住と同時に入籍。夫婦揃っての研修を経て、2023年9月、ハウス3棟で自営就農した。

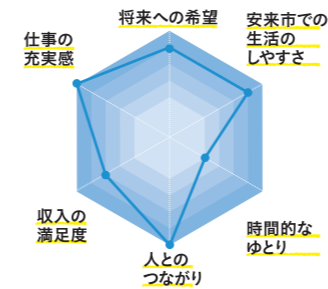
「研修制度は最短で効率よく知識が得られる手段」と実感する一貴さんは、師匠や自営就農者の先輩はもちろん、地域の農家の人たちも良き師匠だという。美月さんも「皆さんが気にかけてくださり、食味につながる水分量など具体的なアドバイスまでいただきます」と感謝する。「美味しいいちごで安来を盛り上げたい」という夫婦の夢を加えて、いちごは最高の風味を獲得するべく育っている。

●小崎一貴さん・美月さん プロフィール
一貴さんは福岡県出身。美月さんは広島県出身。前職の勤務地米子市で同僚として出会う。2021年安来市移住と同時に入籍。同年5月から師匠研修、実践研修を経て、2023年9月自営就農。現在4品種（かおり野、ベリーポップすず、紅ほっぺ、章姫）のいちごを高設栽培する。研修期間中から農業関係の人も広がり、アドバイスや情報交換、さらに販売先の確保にまでつながっている。

小崎さんの収穫時期の1日

- 6:30 起床
- 7:00 収穫
- 10:00 調製
- 12:00 昼休憩
- 13:00 調整・出荷準備
(時間があればハウス作業)
- 17:00 出荷
- 18:00 帰宅

就農後の満足度指数



Q.農業のやりがいと、大変なところは？

A. 自分の手で一から育てあげる達成感と、食べたお客さんに「おいしい」と言ってもらえる幸福感が醍醐味です。自然環境に大きく左右されるため臨機応変な対応と新しい知識の習得は必須で、体調管理も重要です。

Q.現在の課題と、今後の目標は？

A. まだマニュアル通りに取り組んでいるので、先を予測して効率よく生産できるようになりたいです。今後ハウス3棟を増設する計画で、雇用を考え作業の効率化を図って収穫量を増やし、安来のいちごをさらに盛り上げたいと思います。



いちごの「高設栽培」と「土耕栽培」

「高設栽培」は環境制御がしやすいことや、適果や収穫などの作業姿勢の負担が少ないことがメリットですが、「土耕栽培」に比べると初期コストがかかることが難点です。それぞれのメリット・デメリットをふまえたアドバイスを行っています。

農林大学校で学び自営就農
「ぶどうは一生の仕事です」

横 浜市生まれの大森菜月さんは中学3年のとき、一家で安来市に1ターン。高校卒業後の進路を決めるころには就農を考えるようになり、もともとぶどうが好きなことと父の助言で島根県立農林大学校果樹専攻へ進学した。「農大では実際に植えてあるぶどうの樹で年間を通して作業が学べたので、就農後もスムーズだった」と振り返る。農大と安来市や関係機関が毎年情報交換するつながりに加

えて、両親の人脈も心強かった。自営就農は農大卒業と同時の2022年3月。空きハウスがあったことと機械導入に関する補助など、市の丁寧なサポートで初期投資も抑えられた。初収穫はほぼ県内のケーキ店に出荷したという。町内のぶどう生産者の中で若手として期待され、懇親会で銅を囲みながら大先輩のアドバイスももらう。「ぶどうは一生続けていきたい仕事です」と思いはますますぐだ。



1ターンして就農歴6年
次世代へつなげる圃場へ

田村耕太郎さん(45)
雅子さん(45)

安 来市には充実した新規就農制度が整い、未経験者でも安心して就農できることから、Web系エンジニアだった夫の田村耕太郎さんと妻の雅子さんは東京から1ターンしてきた。ともに研修を経て、有機野菜で自営就農したのは2017年7月。「赤江・オーガニックファーム」(2015年に安来市赤江地域の1ターナー者で結成)のメンバーとして、安全で美味しい野菜を消費者に提供している。「安来の有機野菜は地域を底支える重要な産業です。次の世代に渡せる圃場に育てていきたい」と、雇用もしながらさらに安定した経営を目指し奮闘中だ。



就農歴
6年

就農歴
2年

大森 菜月さん(22)



●大森菜月さん プロフィール

神奈川県横浜市出身。中学3年の時に一家で1ターン。島根県立農林大学校卒業と同時に2022年3月自営就農。シャインマスカット、ピオーネ、クインシーナ、デラウェアの4品種を栽培。県や農大の先生からのアドバイスでいちごも植え、増収を図っている。

Q.農業のやりがいと、大変なところは？

A. 育てたぶどうが大きく立派な実になったときはとても嬉しくて、その場でつまみ食いができるのも特権です。夏の朝は5時頃から作業が始まるので早起きはちょっと辛いです。

Q.現在の課題と、今後の目標は？

A. 収穫量を増やして安定させること。ただ、どんどん拡大するのではなく、まずは一人でできる範囲で地道にやっていきたいです。

地域づくりパートナーから 雇用就農、自営就農の未来へ

安

来市特定地域づくり事業協同組合(以下、組合)の組合員(事業者)のほとんどが農業事業者です」と事務局長の石原和幸さん。組合で雇用する派遣労働者は、地域づくりパートナー(以下、パートナー)と呼び、数年後には事業者の正規社員として雇用または、自営就農に向け、育成しているところ。パートナーにとっては安定的な収入確保と、さまざまな事業に従事できる利点があります。これまでも1年で組合を卒業して正規雇用へ結びついたり、自営就農への足がかりとしている人など、市内外から人材を受け入れています。

「移住相談や雇用就農、自営就農相談など、組合への相談はさまざま」と石原さん。安来市移住や農業を始めた、農業に携わりたい人の窓口の一つとなっています。



安来市特定地域づくり事業協同組合 事務局長 石原和幸さん

安来市特定地域づくり事業協同組合

地域コミュニティや産業の担い手不足に対し、仕事を組み合わせマルチワークを形成。「組合員」である事業者に対し労働派遣を行います。派遣労働者を地域の担い手「地域づくりパートナー」として受け入れ、育成することを目的としています。「地域づくりパートナー」はさまざまな事業に従事し、スキルアップを目指すことができ、「組合員(事業者)」には、次世代の人材育成、将来雇用につなげることができます。「地域づくりパートナー」が地域活動に参加することによりコミュニティ維持につながります。「地域づくりパートナー」「組合員」「地域」三方よしとなるように取り組んでいます。

島根県安来市安来町878番地2
TEL.0854-21-9005
https://www.yasugi-multi-work.com/



やすぎ農業サポートセンター

農家で働きたい人と 働き手がほしい農家をつなぐ

求 人は、自力で働き手を見つけていく新規就農者や、農繁期のみ人手を必要とする安来市内の農家。求職者は、短期・長期で農作業のお手伝いがしたいと思う方で、やすぎ農業サポートセンターに登録した農業サポートです。

求 人は、自力で働き手を見つけていく新規就農者や、農繁期のみ人手を必要とする安来市内の農家。求職者は、短期・長期で農作業のお手伝いがしたいと思う方で、やすぎ農業サポートセンターに登録した農業サポートです。



やすぎ農業サポートセンター 事務局 竹部沢香さん

やすぎ農業サポートセンター 担い手支援センター内

2015年4月に開設された無料職業紹介所で、2016年度からは事務局に地域おこし協力隊の制度を活用。運営は安来地域担い手育成総合支援協議会(安来市、JAしまねやすぎ地区本部、島根県東部農林水産振興センター安来農業部、安来市農業委員会)です。農家の高齢化やパート不足による労働力不足を解消するため、農家とサポーターのマッチングのほか、サポーターの募集や研修、制度を広く知ってもらうためのチラシ配布やホームページの運営を行っています。

島根県安来市穂日島町303
TEL.0854-26-4425
http://yasugi-nsc.jp/

